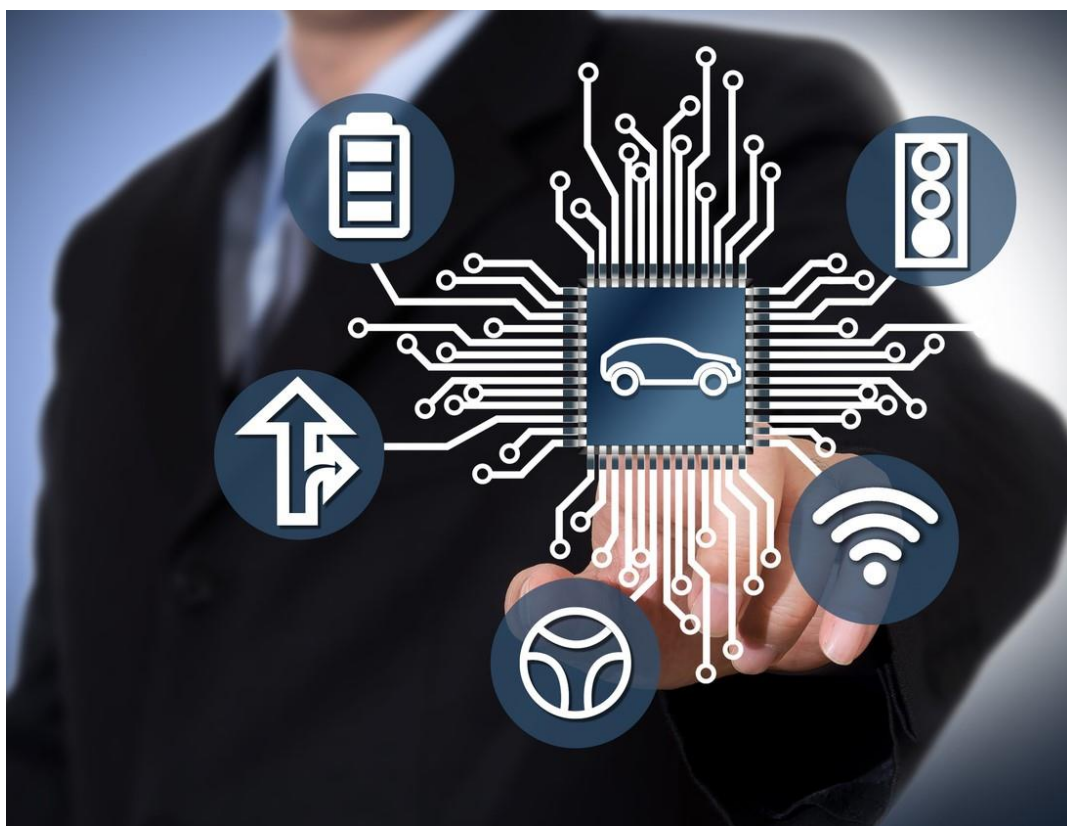


ロボテック戦略月次レター（2023年7月の振り返り）

自動車向け半導体分野への ポジティブな見方強める

車載半導体企業の業績は堅調、自動運転車やEV拡大に期待

7月もグローバル株式市場（MSCI ACWI、米ドルベース）は上昇し、年初からの上昇幅を拡大しました。米国をはじめ各国でインフレ率の低下傾向が続いていることが市場で好感されました。当戦略は前半は非常に堅調なパフォーマンスとなりましたが、当月は主として日本の自動化関連銘柄が軟調となったことから市場全体を下回るパフォーマンスとなりました。



7月は、自動車向け半導体企業が好調な業績を発表しました。自動運転車やEVの拡大でより多くの半導体の使用拡大が予想されています。

企業業績は概ね堅調さを保っており、消費も底堅く推移していることから市場は米国経済の「ソフトランディング（景気が急激に後退することなく緩やかに減速すること）」に自信を深めています。しかしながら、製造業の活動はまだ模様で、中国経済も力強さが見られないことからマクロ経済見通しは引き続き不透明な状態です。ここ数週間において中国では景気刺激策への期待が高まっているものの、現時点では同国で事業を行う企業にとって厳しい環境となっています。

当月には、自動車向け半導体企業は好調な業績を発表しました。中でもオン・セミコンダクターやNXPセミコンダクターが堅調でした。自動車向け半導体の今後の見通しについて市場では活発な議論が交わ

されており、強気派は自動運転車や電気自動車(EV)ではより多くの半導体が組み込まれ成長を支えると主張しているのに対し、弱気派は経済環境が悪化する中、自動車販売の低迷や半導体の在庫積み上がりを懸念しています。当戦略の運用チームは、この分野についてはよりポジティブに考えています。NXPセミコンダクターは2023年1-3月期が同社にとってサイクルの底となり、2023年下半期の業績は2023年上半期より上向き、更には2022年下半期の業績をも上回るだろうとの見方を示しています。

中国の景気失速が世界経済にとって懸念材料に

なお、中国では、2023年初頭にゼロコロナ政策を解除したときに期待されたほどの景気回復を示しておらず、景気の失速がグローバル経済にとって心配の種となっています。景気刺激策の発表に期待がかかりますが、



中国はゼロコロナ政策解除後に期待された景気回復を示しておらず、景気失速が懸念されています。

内需に弱さが見られること、他国が中国などから自国へ生産を回帰させようと補助金を増額させていることなどから先行きには不透明感があります。

のFA部門で特に顕著で、産業用ロボット部門は比較的持ちこたえています。需要が回復するまで収益への圧迫は続くと思われませんが、経営陣は値上げを実施し、投入コスト上昇の影響を和らげようとしています。中国における経済活動の回復が重要な鍵となりますが、短期的に実現は難しく、同社にとって年後半も厳しい環境になると見られます。

当月は、日本の自動化関連銘柄がマイナス寄与となりました。ファナック、キーエンス、オムロン、三菱電機などはいずれもFA（ファクトリーオートメーション）の見通しが弱含み、不透明感があることを示唆しました。ファナックは特に中国での受注が鈍化しており、収益の圧迫要因となっています。この傾向はコンピュータ数値制御装置（CNC）やサーボモータなどのヘルスケア関連銘柄は堅調な業績を発表しました。手術支援ロボット大手のインテュイティブ・サージカルは、2023年の手術件数見通しを年初に示した12-16%成長から20-22%成長へ上方修正しました。また、同社は中国におけるシステムの新たな販売枠を獲得したことを発表するとともに、間もなく新製品を投入する可能性を示唆しました。業績発表会見で「試作品費用が上昇」していること、顧客がシステムを購入するよりもリースを好む傾向があり「次世代テクノロジーにアップグレードする柔軟性を確保」していると強調しました。

ディスクレーマー

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2023年3月末時点で約8,420億ユーロ*の運用資産残高を有しています。

*アーキタス、アクサIMプライムの分も含みます。アクサIM内の部門間取引分は相殺消去しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2022年12月末時点で4,890億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

2022年12月末時点で、アクサIMは18カ国24拠点において2,600名超の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-31703